

【学校教育目標】 学んだ知恵を活かし、主体的・協働的に自己の未来を切り拓く 緑っ子の育成

「学んだ知恵を活かし」：物事を理解し適切に処理していく力を活かす 「主体的・協働的に自己の未来を切り拓く」：自ら進んで、仲間と協力し合いながら自身の将来を見通す

令和5年度 育成を
目指す資質・能力

【基礎的なICT操作】
【学んだことを自分の言葉で適切に表現する力の育成】
【規範意識の醸成】

重点目標	達成指標	分担	重点的取組	取組指標	取組状況の評価	達成状況の評価	検証結果（自己評価）		学校関係者評価
							取組結果	今後の改善策	
【基礎的なICT操作の習得】 ロイロノートの基本操作の習得	ロイロノート基本操作アンケートで「自力でできる」と回答した児童の平均割合を下学年90%以上 上学年80%以上に する。 下学年88.3% 上学年79.6%	学校	・ロイロノートの基本操作の指導及び授業での効果的な活用	・学級・教科担任は、授業等でロイロノートの指導・活用を月平均10回以上実施する。（9～12月） ・ロイロノートの思考ツールを活用した授業を学期に2回以上実施する。	B	A	・ロイロノートの月平均活用状況は14.7回であり、積極的な活用がされていた。 ・思考ツールについては2回以上の実施ができず。	・文字入力到達度の明確な基準設定の必要性。 ・各学年に応じた活用レベルの更なる向上に努める。	・基礎的な操作の習得は向上しているが書くこととのバランスも必要。 ・評価については学校評価の通り。
		家庭	・i-padの適切な使い方の指導（見守り）	・「iPadの使い方」を基に、持ち帰った際に、不適切な使い方をしていないか必ず確認する。	A		保護者アンケートで確認しているとの家庭が91%であった。	・情報モラルの授業実施。 ・持ち帰りについての保護者アンケートを随時実施。	
【学びを活かす力の育成】 学んだことを自分の言葉で適切に表現する力の育成	学期末チェックテスト（思考・判断・表現）の目標達成児童の割合が60%（1年生90%以上）を超えた教科数を26以上に する。 29教科 達成率111.5%	学校	・課題に対する「適切なまとめ」のある授業の実践	・学級担任は、算数での「児童の言葉によるまとめ記述」を実施時数の70%以上実施する。 ・学級担任は、算数の児童のノート記述（全部または一部）を集約をもとにした校内研修（学期に2回以上）で支援方法を検討する。	S	S	・「児童の言葉によるまとめ記述」では教員の81%、児童の93%が実施できたとしている。 ・児童のノート記述をもとにした校内研修も実施した。	・「児童の言葉によるまとめ記述」更なる実践と定着。	・学校運営協議会として3年生の放課後学習を順調に実施することができた。次年度に継続実施したい。 ・評価については学校評価の通り。
		家庭	・自主的な家庭学習習慣の育成	・進んで宿題をした際は、認め励ましの言葉を週に1回程度かける。	A		アンケートでは保護者の97%児童の85%が肯定的回答。	・引き続きの協力依頼。	
		地域	・定期的な学習支援の実施	・地域と連携した放課後学習教室を、3・4年生を対象に月1回以上実施する。	S		順調に実施できた。	・引き続きの協力依頼。	
【規範意識の醸成】 社会生活のルール・マナーを進んで守ろうとする態度の醸成	生活ルールアンケートで「守れた」と回答した児童の割合を全体比80%以上に する。 85% 達成率106.3%	学校	・児童の意識づけ及び自己評価の実施	・学級担任は、強化週間を含め、取組についての意欲付けや声かけ、振り返りを1日1回以上行う。	A	A	教員の94%が取り組めたとしている。	児童の生活上の喫緊の課題を教職員間で共通理解し、児童へ生活目標として提示する取組を継続する。	・学校運営協議会を通して、地域でのあいさつの取り組みを広げていくとともに、地域の行事について検討していく。 ・評価については学校評価の通り。
		家庭		・1日1回は、あいさつやあたたかい言葉かけ等を行う。	A		アンケートでは保護者の98%児童の88%が肯定的回答。		
		地域		・子どもに会った時は、あいさつやあたたかい言葉かけ等を行う。	A		アンケートでは児童の92%が地域の方からあいさつをいただいているとの回答。		

*評価（S：100%超過 A:80%以上～100%以下 B：60%以上～80%未満 C：60%未満）